

長根さんが全国障害者書道コンで金賞受賞

障害者による書道・写真全国コンテストの結果が昨年12月9日に発表され、長根新一郎さん(平舘、64歳)が書道の部で最優秀賞の特別賞に次ぐ金賞を受賞しました。



「今回の金賞受賞が、障害がある仲間たちを勇気付けることができたらいいですね」と話す長根さん

の正法眼蔵から引用した「雪裏梅花」。長根さんは障害があるため、長く座っていることが難しく、ほとんど一発勝負で書き上げました。長根さんは昭和36年、電気工事作業中の事故が原因で、脊髄を損傷。約20年間の入院生活を強いられました。その時出合ったのが書道。リハビリで始めた書道も、今では楽しみの一つになっています。

市交通指導隊と市防犯隊が初点検を実施

新しい年を迎え、心も新たに一年間の交通安全や地域安全の推進を誓うことを目的に、市交通指導隊(相沢徳宣隊長)と市防犯隊(遠藤義明隊長)の初点検は1月6日、西根地区市民センターで行われました。旧3町村の両隊は合併で再編され、市交通指導隊37人、市防犯隊44人の体制になりました。この日は、両隊全員が出勤。関係者が見守る中、観閲や点検も行われ、隊員たちは気を引き締めました。



手帳などの点検を受ける交通指導隊の隊員

寒風の中、女性主体の荒行「平笠裸参り」



出征した男性の武運を願う女性に受け継がれました

市指定無形文化財の平笠裸参り(伊藤信也保存会会長)は、1月8日に行われました。1719(享保4)年の岩手山噴火を鎮めるために始まったとされるこの行事。女性20人を含む30人は、冷水で身を清め、白装束姿となって出発しました。全国的にも珍しい女性主体の裸参りは、無病息災や五穀豊穡を祈願。平笠・宮田神社から大更・八坂神社までの約10キロの道のりを練り歩きました。

「荒木田」を縁に小松市で全国サミット開催

第2回全国荒木田サミットは昨年12月4日、石川県小松市の荒木田町で開かれ、本市から荒木田(西根地区)の住民など29人が参加しました。交流は、平成10年11月、旧西根町で第1回サミットが開催され、名前の由来を学び文化の交流を図ったのがきっかけ。この日は、全国から「荒木田」にゆかりのある人たち約130人が参加しました。「荒木田」姓や「荒木田」地区に住む人たちが7年ぶりに再会し、

交流の継続を誓いました。式典では、サミット実行委員長の前栄次郎小松市荒木田町内会長が歓迎のあいさつ。続いて、田村正彦市長のメッセージも披露されました。子供獅子舞や大正琴などを紹介するアトラクションのほか、岩手県の民謡なども披露され、会場は和やかな雰囲気になりました。参加者たちは、これからの交流と近い将来の再会を約束し、サミットを閉じました。



石川県小松市荒木田町で開かれた「第2回全国荒木田サミット」。全国から、「荒木田」姓や「荒木田」地区に住む人たちが集まり、近況報告をしながら、交流と親ほくを深めました

市の将来を担う児童や生徒が市長に提言

市長と児童・生徒が、まちづくりについて話し合う、第17回西根地区小中学生会議は1月11日、西根地区市民センターで行われました。西根地区の小・中学校9校から2人ずつ18人が参加。「まちづくり」「学校」「行事」の3つのテーマに絞って、会議が進められました。参加者は、「福祉や環境部門で、日本一優しい市になってほしい」などと、日ごろ感じていることを市長に提言しました。



日ごろ感じていることを市長に提言する小・中学生

笑う門には福来たる。婦人会の新春演芸会



マツケンサンバIIを披露した平舘婦人会のグループ

西根地区婦人会演芸会(西根地区婦人会連絡協議会主催、田中タカ会長)は1月15日、西根地区市民センターで開催されました。演芸会には、新春から歌や踊りで楽しく過ごそうと約250人が参加。西根地区の各支部婦人会が、趣向を凝らした30演目を披露しました。出演者の中には、「マツケンサンバII」を熱演するグループもあり、会場を盛り上げました。

安代



活躍を誓い田村市長と握手を交わす島山長太選手(中)

島山長太選手がスキー世界Jr選手権出場へ

1月31日から2月5日までスロベニアで行われるスキーのノルディック世界ジュニア選手権に2年連続で出場する島山長太選手(盛岡中央高3年、曲田)が1月17日、田村正彦市長のもとを訪れ、大会への抱負を語りました。田村市長から「大会ではプレッシャーに負けずに頑張ってください」と激励を受けた島山選手は「10位台を目標に昨年以上の成績を出したい」と力強く決意を述べました。

安代地区に住む高齢者宅などの家の周りの雪かきを行う安代町スノーバスターズ(中村吉松隊長)は1月8日、今シーズンの活動を開始しました。この日は28人が出動し、冬の多い雪に悪戦苦闘しながら雪かきに汗を流しました。同スノーバスターズには、ボランティアや安代中の生徒など134人が隊員に登録。3月までの毎週日曜日に市内安代地区21世帯の除雪作業を行います。



除雪作業に汗を流す安代中の生徒

笑顔で雪かき助っ人。スノーバスターズ始動

安代産業振興公社(社長・田村正彦市長)では、昨年の12月から市特産のヤマブドウを活用した「八幡平山葡萄ワイン」(「八幡平山葡萄原液」「八幡平山ぶどうジュース」)の販売を開始しました。以前は「あしる」の名称で販売されていたが、合併を機に名称とラベルを変更したものです。ヤマブドウ果汁は、さわやかな酸味とすっきりとした口当たりが特徴。鉄分やポリ

フェノール類(カテキンやアントシアニン)を多く含む、貧血や産前産後、虚弱体質などの滋養に効果があり、古来から飲まれてきました。糖尿病合併症を防ぐ作用を持つ可能性があるといわれ、最近の研究では、搾りかすから抽出した物質にも同様の可能性が大きいことが分かっています。販売店などの問い合わせは安代産業振興公社(☎72-2896)まで。

特産品生かした「八幡平ワイン」販売開始

松尾

多彩なイベント満載、八幡平ゆきまつり開幕

冬季誘客を目的にした八幡平ゆきまつりは昨年12月24日、八幡平温泉郷内でオープンングセレモニーが行われました。同地域の冬季観光イベントとして毎年開催され、今年で3回目。関係者による鏡割りで、雪まつりが始まりました。アトラクションでは、柏台保育所の園児がお遊戯を披露。もちつき大会も行われ、ホロ



冬季誘客イベントとして定着した八幡平ゆきまつり。本番前の2月11日には、かまくらや雪像も森乃湯向かいの特設会場に登場します(写真は、お遊戯を披露したご褒美にお菓子をもらって喜び園児たち)

ホロ鳥汁とともに観光客などに振る舞われました。同イベントでは、毎晩9時までイルミネーション(3月末まで)を点灯し、同地域を彩るほか、2月18、19の両日には、雪あかりウオークや花火大会、ふれあいドッグランドなどの多彩なイベントも開催されます。詳しくは、(株)松尾八幡平観光協会(☎78-3500)まで。

3色の団子が彩るミズキの木、華やかに満開

柏台保育所では1月13日、小正月行事の「ミズキ団子作り」を行いました。当日は園児のほか、祖父母なども参加。きねとうすで、もちつきが始まりました。園児たちは、きねを支えてもらいながら「よいしょ、よいしょ」ともちつきを楽しみました。もちは赤と緑に着色し、白を含めて3色の団子が完成。ミズキの枝に団子をきれいに飾り付け、ミズキの花を満開に咲かせました。



3色の団子でミズキの木をきれいに飾り付ける園児たち

今年市の発展も願った松尾寄木の裸参り



無病息災、五穀豊穡などを祈願して練り歩く参加者たち

松尾寄木地区に伝わる小正月の伝統行事「寄木天照皇大神宮」の裸参りは1月16日、松尾寄木地区で行われました。25人の男女が白装束を身にまとい、「はさみ」と呼ばれる長いさおや鈴を手に南寄木集落センターを出発。大神宮まで約1.5kmを練り歩き、無病息災や五穀豊穡を祈願しました。この裸参りは、江戸時代中期に岩手山の噴火を恐れた人々が、山の神を鎮めるために始まったと伝えられています。